

社会構築論系 共生社会論プログラム 現代共生理論ゼミ Can We Live Together? (定員 1 学年15名)

講義要項内容： (1) Can We Live Together? を基本テーマにして、社会学を中心に経済学、政治学、サイバネティックス、統計学の知識と方法を習得しつつ、知的な討論を繰り返して、メンバー各位の固有の意見、理論をまとめていく。コンピュータを十分に使いこなすとともに、フィールド・ワークにも積極的に取り組んでいく。(2) その前半70分はreadingsとし新旧重要文献を読む。後半30分はresearch methodとfield workのための時間とする。毎回90分では絶対に終わらない。疲れたら、みんなでビールを飲みに行く。(3) 3年度生の目標は、2年生までに学んだ知識とスキルを確認しつつ、基本テーマについて各自の研究成果をまとめていくこと、4年度生の目標は、1年間行ってきた研究成果を英語でプレゼンテーションをして、議論をすることにおき、最終成果としてゼミ論文を仕上げることをす

実験実習費等費用について： 年間3回ほど合宿を予定している。合宿ならびにコンパは個人負担。合宿については、大学セミナーハウスを利用し、JR団体割引料金を利用するので、概ね2泊3日1回13,000円前後となる。

First Quarter :						
月	日	First Period (前半70分)	Readings & Discussion	Second Period (後半30分)	Method I.	On Demand Reading I.
			「都市<東京>」について考えていく。数種類のテキストをグループ報告とグループディスカッションを繰り返していく。夏課題レポート「都市<東京>を見るパースペクティブ」	新聞データベースの利用法について確認していく。「<新銀行東京>とは何であつたか?」をグループでまとめていく。(1)『朝日新聞』『日本経済新聞』DBから情報検索をしつつ、(2)東京都、総務省、経済産業省、財務省の統計情報サイトのデータも参照しつつ、<新銀行東京>の①現在の問題、②石原治世下の経緯、③それ以前の経緯、④地域金融とは何か、⑤今後の可能性、につい		英語で論文を書くことを目標にして、3年春学期は、英文の学術論文、新聞解説記事を精密に翻訳をすることから練習をする。課題文を提示し、精密でこなれた邦訳を作る練習をする。2週間で1つの課題を完全にこなすように、私が細かく添削を行う。
4	8	自己紹介		準備		
	15	ゼミの進め方について		準備		
	22	「親密性と公共性」について報告と議論		準備		
	29	「メディアとコミュニケーション」について報告と		①現在、何が問題か?		
5	6	休日				
	13	合宿の準備作業		①現在、何が問題か?		
	20	「空間と場所」について報告と議論		②石原治世下の経緯について		
	27	「街角で感じる<公>と<私>」について報告と議		②石原治世下の経緯について		
6	3	「コミュニティ・デザインと都市の公共空間」について報告と議論		③それ以前の経緯について		
	10	「<郊外>の誕生と死」について報告と議論。		③それ以前の経緯について		
	17	合宿の準備作業		合宿の準備作業		
		合宿 (6/20-22) 夏合宿 (2泊3日) 鴨川セミナーハウス				
		課題1 「<都市>東京」について分析報告と議論				
		「親密性と公共性」「メディアとコミュニケーション」「空間と場所」にある「考えてみよう」の課題から選択をして1グループ45分の分析レポートを制作する。グループ(3人)による5報告(オムニバスでもよい)			45分×5	
		課題2 「地域と金融 一新銀行東京を事例に」まとめ、分析、議論				
		毎週グループ順に集めてきた内容の概説報告と、主題ごとにWorkshopを行う。			45分×2	
		課題3 課題図書を読み議論する				
		『日本住宅公団40年史』について議論する。			60分×1	
		課題4 課題図書を読み議論する				
		芦原義信『街並みの美学』岩波現代文庫を読み議論をする。			60分×1	
		課題5 課題図書を読み議論する				
		大澤真幸『不可能性の時代』岩波新書を読み議論をする。			45分×2	
		課題6 レポート制作準備				
		各自の夏レポートの方向性について報告			10分×15	
		森教授講義				
		相互作用の音楽的基礎			80分×1	
7	1	レポート執筆内容要点報告				
	8	レポート執筆内容要点報告				
	15	レポート提出				レポート準備
	22	オンデマンドによる相互批評				レポート準備
	29	レポートについての批評会				邦訳提出： 批評と議論
8		ゼミについては忘れ、自分たちのことをする。				
9		ゼミについては忘れ、自分たちのことをする。				

Second Quarter:				
		First Period (前半70分) Readings & Discussion	Second Period (後半30分) Method I.	On Demand Reading II.
		「資本主義社会はどこに行くか？」をテーマにして、古典から現代の業績まで集中的に読破して議論をしていく。	「東京オリンピックとオリンピック2016」ならびに「都市＜東京＞のゴミ問題」をテーマにしてデータを実際に分析する。冬課題レポート「東京オリンピック2016の社会的意味」	
9	30	マクス・ヴェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』岩波文庫を読んで理解するために。	調査概要の説明	
10	7	ゼミ報告会	基本集計についての報告+東京都の動き	
	14	マクス・ヴェーバー『職業としての学問』岩波文庫を読む。	基本集計についての報告+東京都の動き	
	21	マクス・ヴェーバー『職業としての政治』を読む。	基本集計についての報告+東京都の動き	
	28	カール・マルクス『共産党宣言』岩波文庫を読む。	基本集計についての報告+東京都の動き	
11	4	ヘルベルト・マルクーゼ『初期マルクス研究』未来社とフランクフルト学派	多変量解析についての報告+東京都の動き	
	11	テオドール・アドルノ、マクス・ホルクハイマー『啓蒙の弁証法』岩波書店から	多変量解析についての報告+東京都の動き	
	18	ミルトン・フリードマン『選択の自由』日経ビジネス文庫から	多変量解析についての報告+東京都の動き	
	25	ジョセフ・ノセラ『アメリカ金融革命の群像』から	多変量解析についての報告+東京都の動き	
12	2	ウルリヒ・ベック『危険社会』法政大学出版会から	多変量解析についての報告+東京都の動き	
	9	合宿での報告の予告		
	16	合宿の準備作業		
		合宿(12/19-21) 冬合宿(2泊3日) 川奈セミナーハウス		
		課題1 「プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神」とは何か？、分析、議論		
		山之内靖、折原浩、大塚久夫らの書をもとに原典をどう読むか？	45分×2	
		課題2 課題図書を読み議論する		
		「山一證券 社内調査報告書」を読む、分析、議論	45分×1	
		課題3 課題図書を読み議論する		
		アントニー・ギデンズ『第三の道』日本経済新聞社を読み、議論	45分×1	
		課題4 課題図書を読み議論する		
		リチャード・セネット『不安な経済/漂流する個人』大月書店を読み、議論。	45分×1	
		課題4 「オリンピック2016と東京都知事」 調査結果の分析、議論		
		毎週グループ順に集めてきた内容の概説報告と、主題ごとにWorkshopを行う。	25分×5	
		課題5 「ゼミ論文」構想発表会		
		各自の構想について報告をする。	15分×15	
1	6	新年会		
	13	レポート執筆内容要点報告		レポート準備
	20	レポート執筆内容要点報告		レポート準備
	27	オンデマンドによる相互批評		邦訳提出: 批評と議論
2	3	レポートについての批評会		
3		ゼミについては忘れ、自分たちのことをする。		